

2 長寿命化修繕計画の目的等

(1) 橋梁の現状と課題

目黒区が管理する橋梁は37橋あります。その種別は、道路橋と人道橋に区分され、橋長は、河川や鉄道敷など幅に応じた長さとなっています。

橋梁の架替の目安となる架設後50年以上経過する橋梁は、2016年時点で5橋(14%)あります。10年後には7橋(19%)、20年後には約3倍の24橋(65%)となります。

今後、架設年次とともに老朽化が進んでいくため、修繕にかかる費用の増大が見込まれます。そのため、計画的に耐震化及び修繕を進め、予防保全による維持管理を行い、修繕にかかる費用の平準化を図っていく必要があります。

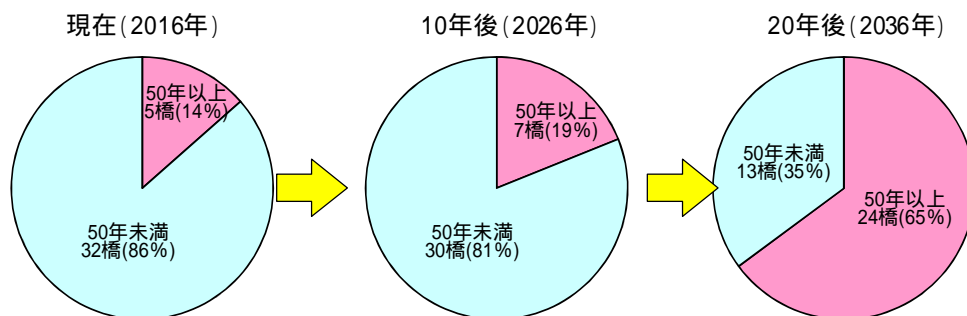


図 1 建設後50年以上となる橋梁の推移

(2) 目的

区が管理する橋梁は、架設年数とともに老朽化が進み、修繕にかかる費用の増大が見込まれます。そのため、計画的に耐震化及び修繕を進め、予防保全型の維持管理により長寿命化を図り、区が管理する全ての橋梁の継続的な安全性と信頼性を確保することを目的とします。

管理方法の考え方

管理方法	内 容
対症療法型管理	日常点検や定期点検などにより、橋梁の老朽化に伴う損傷や劣化を把握し、その都度必要な対策を行う。
予防保全型管理	橋梁に発生する損傷や劣化を事前に予測し、適切な対応を効果的・効率的に行うことにより、事故等を事前に防止し安全性・耐久性等を確保する。